

回復期リハビリテーション病棟の取り組み

チーム協働 ～真のチームアプローチを目指して～



Team Shida

回復期リハビリテーション病棟とは

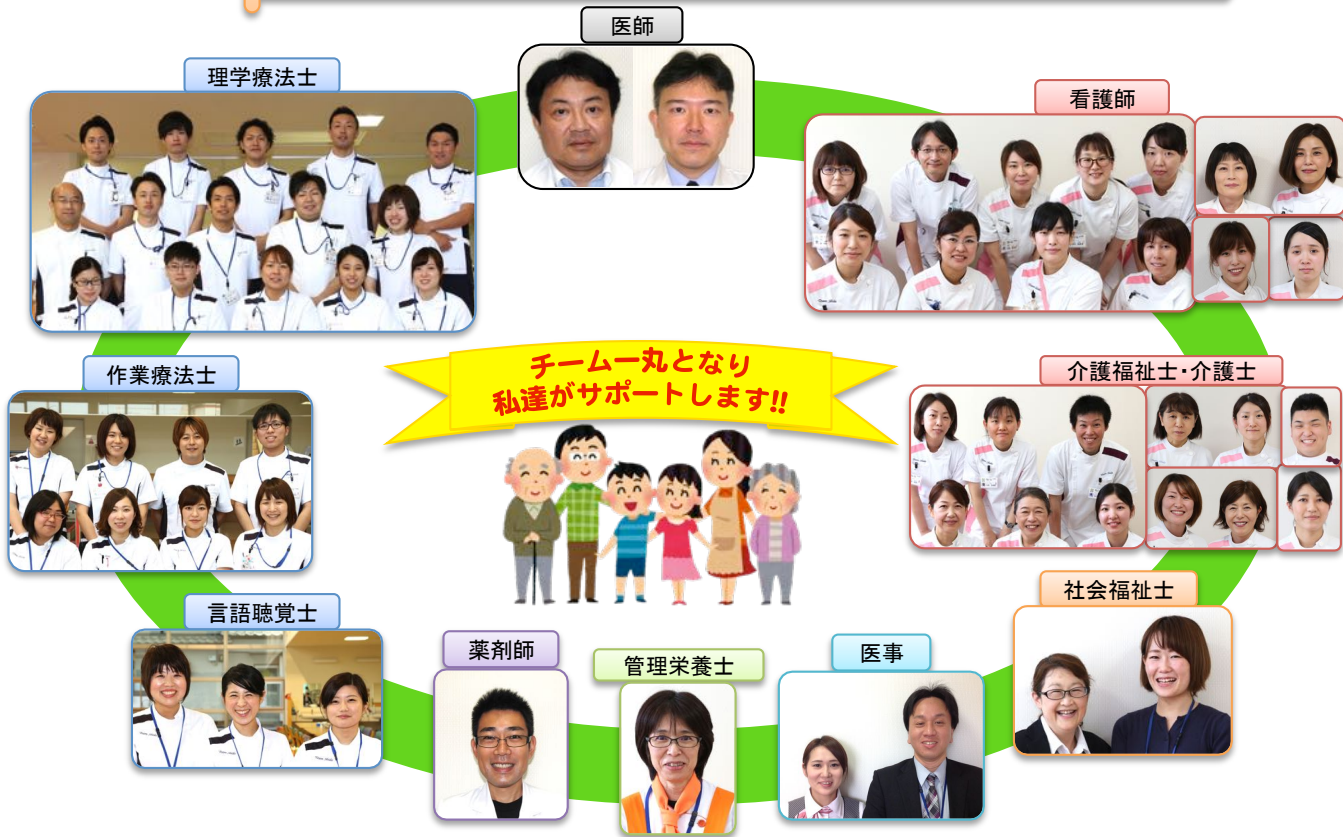
回復期リハビリテーション病棟とは、脳血管疾患、大腿骨頸部骨折などの患者様に対して、ADL(日常生活活動)能力の向上による寝たきりの防止と家庭復帰を目的とした集中的なりハビリテーションを受けることができる病棟です。

私たちは、リハビリの時間だけがリハビリではなく、入院生活全体がリハビリと考えています。日中は寝巻きではなく普段着で過ごしていただき、運動の機会や楽しみのある活動の機会を提供できるよう取り組んでいます。

また、それぞれの専門性を活かして医師、看護師、介護士、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、社会福祉士などが共同で、患者様ひとりひとりに合わせたリハビリテーションの計画とサポートを行い、退院後も安全にその人らしい生活ができることを目指しています。

回復期リハビリテーション病棟の特徴

回復期リハビリテーション病棟では、**限られた入院期間の中で、在宅生活動作能力の向上を図り、自宅退院**を目指します。



回復期リハビリテーション病棟の取り組み

チーム協働

真のチームアプローチを目指して

当院の回復期リハビリテーション病棟は32床です。医師2名、看護師13名、介護福祉士4名・介護士8名、理学療法士15名、作業療法士8名、言語聴覚士3名、社会福祉士2名を配置しています。2017年度の入院患者数は150名で、内訳は脳血管疾患35.3%、運動器疾患48.0%、廃用症候群16.7%となっています。

実績	在宅復帰率	平均在院日数	1日のリハビリ提供時間	重症者受け入れ率	重症者改善率
2015年度	92.9%	69.5日	2時間48分	29.9%	62.0%
2016年度	90.9%	60.1日	2時間52分	26.2%	58.1%
2017年度	79.1%	62.5日	2時間52分	38.0%	57.2%

質の高いチーム医療で、自宅退院・社会復帰を目標に、365日良質なりハビリテーションを提供できるよう努めます。